

【高等学校用】

令和7年度学校評価 結果・学校関係者評価

達成度(評価)

A:十分達成できている C:やや不十分である
B:おおむね達成できている D:不十分である

学校名 佐賀県立武雄高等学校

1 前年度 評価結果の概要 (簡潔に)
・学力の向上については、地域や国際社会の問題に対する関心が高まり、探究活動に対する意識が前向きに変化した。
・業務改善・教職員の働き方改革については、目標達成ができなかった。より効果的な取り組みや学校行事の精選等だけでなく、稼業日以外の業務に対しても働き方の意識改革を推進していきたい。

2 SAGAスクール・ミッション 学校教育目標
○ 西部地区唯一の県立中高一貫教育校として、6年間を見据えたカリキュラムに基づく教育実践を更に充実させる。
○ 自治体との連携等による探究を中核とした学びを一層推進し、これからの時代を生き抜く資質・能力を涵養し、地域や国際社会が抱える課題の解決に対して主体的に行動できる人材を育成する。

3 スクール・ポリシー
アドミッション・ポリシー
① 進路希望の達成に向け、基本的な生活習慣と学習習慣を身につけ、学校生活を大切に、真剣に学ぶ意欲を継続的に持とうとする生徒を求めます。
② 質の高い文武両道の実現という本校の伝統を大切に、学業及び課外活動に対し主体的・積極的に取り組み、自己の向上を図ろうとする生徒を求めます。
③ 社会や他者との関係を考えながら、目標を持って、自分の言葉で考え、自分の判断に責任を持ち、主体的に行動し、謙虚に内省しようとする人を求めます。
カリキュラム・ポリシー
① 問題を見出し解決しようとして試行錯誤する過程において自分の考えを形成し、協働しながら新しい意味や価値を創造する「探究」を中核とした6年間の教育活動を推進します。
② 各教科や総合的な探究の時間、ロングホームルーム、様々な課外活動においてたくさんのTry&Errorを体験しながらしなやかに遅い自己調整力・自己回復力を養います。
③ 学問的な面白さに誘う学習過程、習得した知識を活用し考えさせる学習過程、「なぜ(Why)」と「どのように(How)」を大切にしながら学習過程を実践します。
グラデュエーション・ポリシー
① 「確かな知識」、「幅広い常識」、「温かな良識」、「鋭い見識」に基づいて自分なりのもの見方をもち行動できる力を育成します。
② 高い志を持ち、先を見とおしながら主体的・自主的に何ででも挑戦し、その取組に対して自分の言葉で振り返ることができる力を育成します。
③ 自分の個性や強みを生かすとともに、多様な考えを尊重しながら、他者と協働して課題解決に向けて取り組むことができる力を育成します。

4 本年度の重点目標
① 生徒の自主性・主体性を育む教育活動を推進する。
ア 生徒主体の教育活動(学校行事・部活動等)を推進する。
イ 各教科等において生徒指導の3機能(自己決定の場・自己存在感・共感的な人間関係)を踏まえた授業を実践する。
② 探究する力の育成を中核に据えた教育活動を推進する。
ア 総合的な探究の時間等を中心として探究の基本スタイルを習得させる。
イ 外部機関等と連携した取組への積極的参加を促し探究力を向上させる。
③ 全教職員による学校課題の解決に向けた共通理解と共通実践を推進する。
ア 大学入試共通テストや個別大学試験に対応できる授業力を磨くための授業研究を推進する。
イ 広報活動への意識を持ち、当事者として中学生に選ばれた学校で教育活動に協働して取り組む。

5 重点取組内容・成果指標 中間評価 最終評価

(1)共通評価項目
重点取組
評価項目 取組内容 成果指標(数値目標) 具体的取組 中間評価(進捗度/進捗状況) 最終評価(達成度/実施結果) 学校関係者評価(評価/意見) 主な担当者
●学力の向上
○生徒の探究力養成
○教職員の指導力向上
●心の教育
○教育相談体制の充実
●健康・体づくり
●業務改善・教職員の働き方改革の推進
●特別支援教育の充実

(2)本年度重点的に取り組む独自評価項目										主な担当者	
重点取組			具体的取組	中間評価		最終評価		学校関係者評価			
評価項目	重点取組内容	成果指標 (数値目標)		進捗度 (評価)	進捗状況と見通し	達成度 (評価)	実施結果	評価	意見や提言		
★唯一無二の誇り高き学校づくり	★実践的・体験的な活動の充実と県内外への情報発信	★自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合を78%以上、教職員の割合を85%以上	A	・武雄市市民協働課のコーディネーターと連携し、まちづくり事業を進展させて地域との協働活動に取り組み、実践的な活動を通して地域課題の解決に貢献し、その成果を発表する。 ・上記の成果について、生徒・職員にアンケート調査を行い、改善を図る。	A	・今年は「武雄市まちづくり参画事業」希望者が120名と多かったが、市の受け入れ態勢が整っており、生徒は良い経験をさせてもらった。来年以降も希望者増加が懸念されるので、やり方を再考する必要がある。	A	・自分の学校を中学生に勧めることができる生徒の割合が72%で目標値をやや下回ったが、職員員の割合は92%と目標値を達成した。 ・「武雄市まちづくり参画事業」は武雄市の協力のもと立派な成果を挙げることが出来た。	A	・学校としての取組が丁寧で整理され、一定の成果が表れている。生徒個々の視点や挑戦のプロセスがより前面に出ると「唯一無二」の魅力が更に伝わると感じた。 ・多くの生徒が参加できる環境を整備することはできたと考える。	企画研修部
	○広報活動の充実と志願者の増加	○体験入学の参加者を募集定員の180%以上 ○第2回進路希望調査での志願倍率…1.1倍以上	A	・「武雄高校だより」を定期的に発行するなど、ホームページの充実を図る。	A	・体験入学の参加生徒数は224名であり、募集定員120名に対し、186%であった。 ・10月時点での進路希望状況調査において1.19倍であった。	A	・体験入学の参加生徒数は224名であり、募集定員120名に対し、186%であった。 ・10月時点での進路希望状況調査において1.19倍であったが、一般選抜の出願は117名に対し122名であった。	B	・体験入学で1.2倍近い志願者が、出願時に1.06倍になっていることは残念。 ・HPに限らず、中学生や保護者がどのようなツールで情報収集しているかリサーチする必要がある。	教務部
	◎志を高める教育	○社会や他者との関係を考えながら、目標を持って、自分の判断に責任を持ち、主体的に行動できた生徒の割合…70%以上	A	・キャリア教育講演会、進路講演会、探究Ⅱの共働学習をとおして社会と自分との関係について考え、主体的な進路選択、将来設計を行う機会を設ける。	A	・キャリア講演会や学問学習会などは、生徒の意識高揚に大いに効果があったものとする。進路講演会等で、イェール大学や東京大学などの講師との交流を通じて、生徒の意識を高める支援を実施した。	A	・国際教育講演会、進路講演会、探究Ⅱの共働学習をとおして社会と自分との関係について考え、主体的な進路選択、将来設計につなげることができていると考える。自主的に学習や探究に取り組んでいる生徒の割合も81.7%で、目標値を達成している。	B	・中学生に薦めたいと回答した生徒が少ない。もっと自信を持てるように生徒の主体性を活かしてほしい。 ・生徒の多様性を踏まえ、身近なロールモデルや挫折体験を経た事例に触れる機会があると自分事として捉えやすいのではないか。	進路・企画研修部

●…県共通 ○…学校独自 ◎…志と誇りを高める教育 ★…唯一無二の誇り高き学校づくり

<p>6 総合評価・次年度への展望 (簡潔に)</p>	<p>・探究活動では、生徒が主体的に課題を設定し、フィールドワークや外部機関との連携を通して多面的に考察する姿が見られるなど、一定の成果が認められた。一方で、成果発表においては、探究の過程を十分に伝えきれないなど課題が見られた。今後は、プレゼンテーション力を上げる指導や振りかえりの充実が求められる。</p> <p>・働き方改革においては、ペーパーレス化やICTを活用した業務効率化が進んだことにより、教職員の時間外在校等時間を一定程度削減することができた。次年度は年次有給休暇の取得促進を目指し、休暇を取得しやすい業務体制づくりを目指す。</p> <p>・唯一無二の学校づくりに向けた取組については、地域と共に学ぶ活動や、ICTを活用した授業改善、さらに生徒が主体となって活動する学校行事や探究活動の充実により、本校ならではの教育の姿が徐々に形になりつつある。次年度は地域資源を活かした学びや外部との連携を広げ、今年度以上に生徒が自ら考え、挑戦し、社会へ発信していく力の育成を目指す。</p>
-----------------------------	---